

## 令和5年度版

連携型中高一貫教育に係るアンケート調査の結果と考察

### 調査対象者別



中高次世代議会  
(令和5年12月26日開催)



神石高原町教育委員会

## 目 次

### 調 査 対 象 者 別

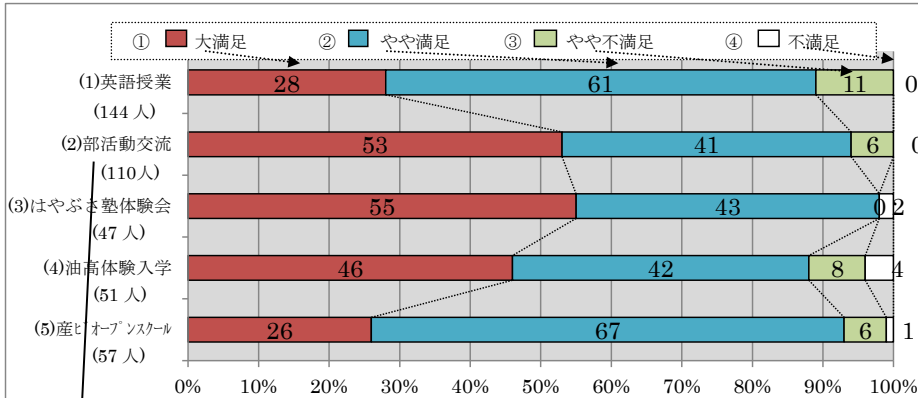
	ページ
1. 中学生 編 .....	1 ~ 9
2. 高校生 編 .....	10 ~ 19
3. 中・高教職員 編 .....	20 ~ 22
4. 小・中保護者 編 .....	23 ~ 29
5. 地域 編 .....	30 ~ 31

### 回 答 者 数

1. 中 学 生	回答者数 <u>153人</u> / 在籍者数	160人
2. 高 校 生	回答者数 <u>154人</u> / 在籍者数	158人
3. 中・高教職員	回答者数 <u>48人</u> / 全教職員数	56人
4. 小学校保護者	回答者数 <u>140人</u> / 対象児童数	156人
5. 中学校保護者	回答者数 <u>148人</u> / 生徒総数	160人
6. 地 域	回答者数 <u>61人</u> / 質問者数	103人

## 1. 町内中学生 に係るアンケート調査の結果と考察

- 1 本年度、油木高校の先生や生徒さんから指導していただいたり、行事に参加したことがある人は、下の該当する項目について、その感想を教えてください。



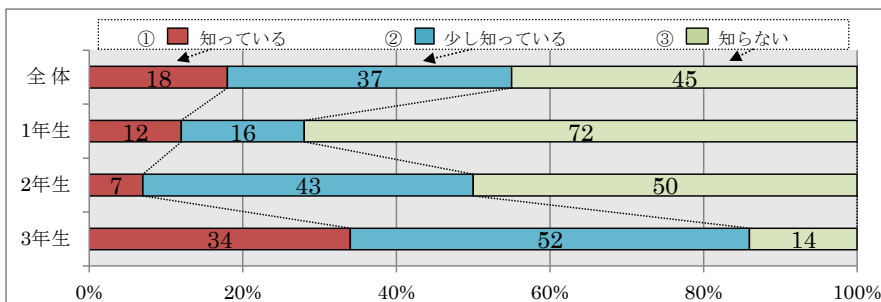
<部活動部員数>

卓球 (三中: 13人+神中: 11人)、バレー (19+13)、ソフトテニス (10+13)、野球 (12+11)、陸上(15+0)、吹奏楽部 (10+10)、美術部 (0+10)、剣道 (13+0)

**考察** 全ての項目において生徒の受け止めは肯定的評価「大満足・やや満足」が88%以上を占め、大変高い評価である。その中で、交流授業で実施している英語の「大満足」度は2番目に低く、中高教職員のアンケート調査においても教育効果はあまり感じておられないようである。(「大変効果がある」中学: 26%、高校: 19%) この交流授業は連携型中高一貫教育校では欠かせない実践項目であり、今後、町研教科部会等で授業交流・授業研究などしながら有効効果を追究していく必要があると思われる。

- 2 神石高原町では「油木高校の魅力づくり」として、色々な支援(部活動遠征費補助・学習支援塾「はやぶさ塾」&「神ゼミ」の開設・外部人材(講師・ツルナー)の活用・海外<短期・長期>研修事業への支援・各種検定受験料の補助)などを実施していますが、そのことについて次の質問に教えてください。

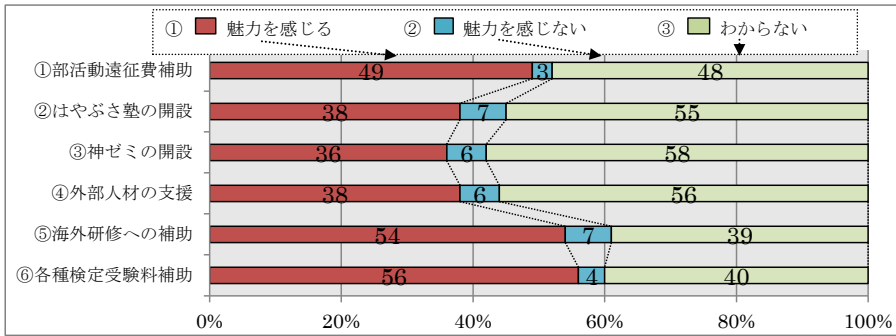
- (1) 油木高校への色々な支援内容について知っていますか。



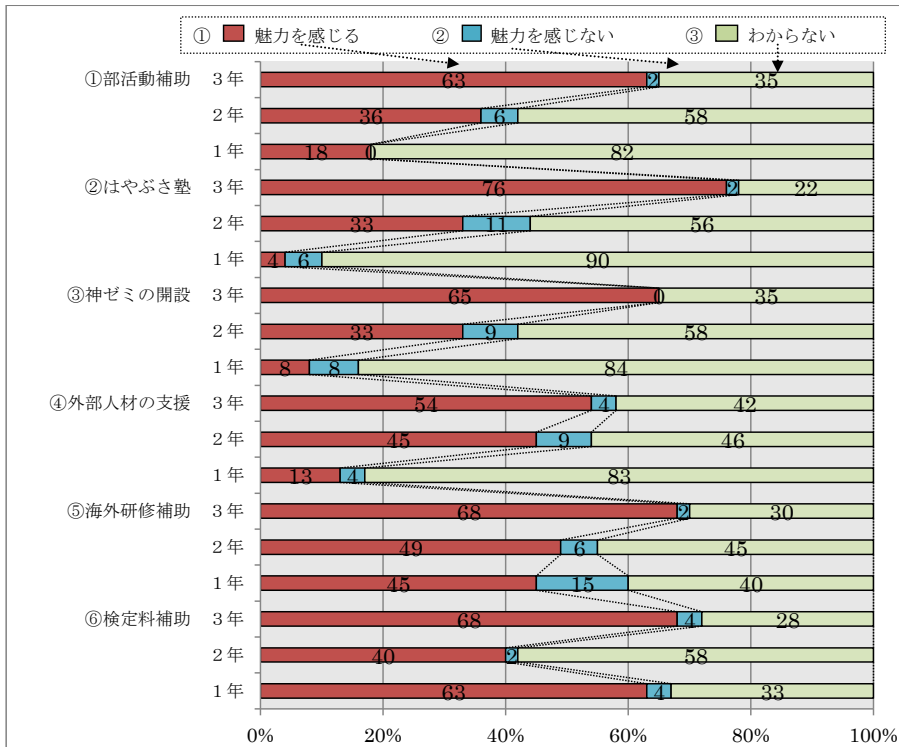
**考察** ・支援内容の認知度は、3年生の「知っている」34%が一番多く、「少し知っている」を合わせると86%と非常に高い認知度である。これは、全中学生へのリーフレットの配布や中学3年生の進路説明会で「町からの支援内容」について説明をいただいていることも影響していると思われる。今後も継続していく必要がある。

(2) 次のような支援（① 部活動遠征費補助 ② はやぶさ塾の開設 ③ 海外短期・長期研修への支援 ④ 各種検定受験料の補助...）についてどう思いますか。

< 2校全体では >



< 学年別では >

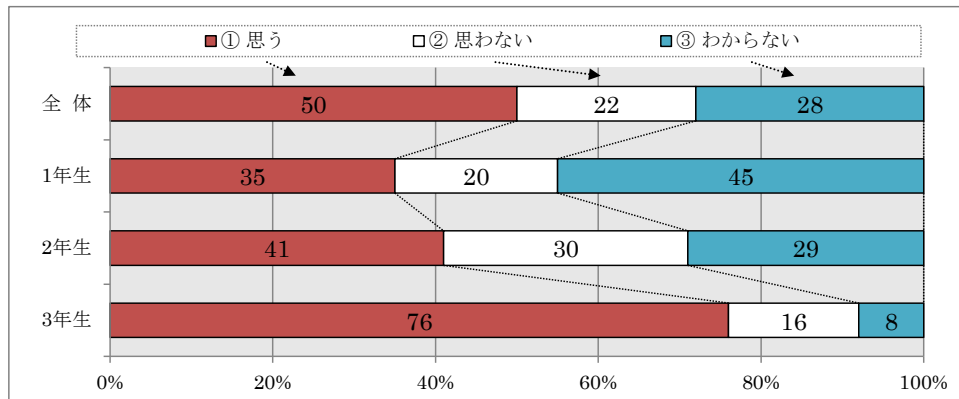


**考察** ・2校全体では、「魅力を感じる」が50%以上のものは、本年度は「海外研修への補助」(54%)、「各種検定受験料の補助」(56%)の2項目であった。海外研修が再開されたことも大きな要因である。

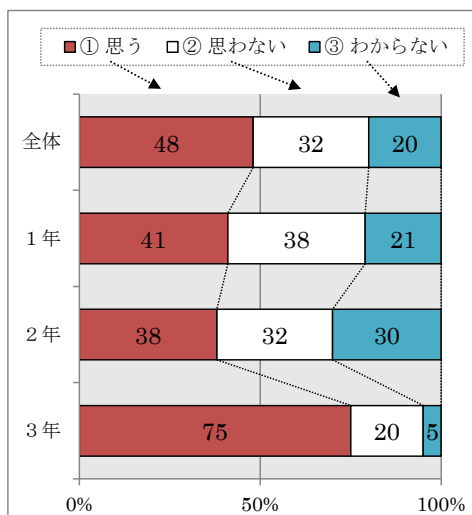
・学年別では、いずれの項目も3年生の評価が一番高く、殆どの項目で60%以上「魅力を感じる」と回答しており、今後も継続してこのような支援は必要と思われる。

③ (1) あなたは油木高校に進学したいと思いませんか。

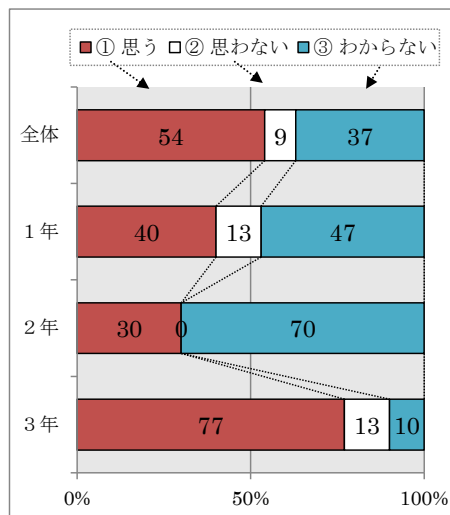
< 2校全体では >



< 三和中 >



< 神石高原中 >



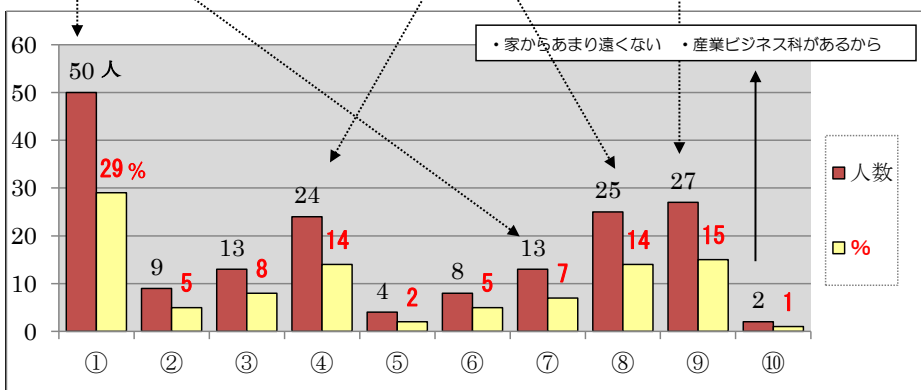
**考察** ・2校全体では、油木高校へ進学したいと「思う」は50%（前年53%、前々年55%）で、昨年に引き続き50%以上であるが減少傾向にある。今後中学生徒数が減少していきだけに50%以上を確保していく必要がある。  
 ・全体の学年別でも、3年生の「思う」が76%で一番高く（R4年62%、R3年66%、R2年61%、R1年61%）、一つの目標数値である60%以上クリアが続いている。また、経年比較でみると（昨年度の2年生53%→本年度の3年生76%）というように年々増加傾向になっている。これは、学校現場の取組みと地域あげでの取り組みの成果なり効果が伺われる。

・学校別においても、両校とも「油木高校へ進学したいと思う」率は3年生が一番高く70%以上を占めている。このことは連携型中高一貫教育校を維持していくためには大変重要なことで、今後もこの数値（50%以上）にこだわり推進していく必要がある。

(2) 3(1)の質問で「①(油木高校へ進学したい) 思う」と答えた人で、その理由とと思うものを下の□の中から選んでください。(複数回答可)

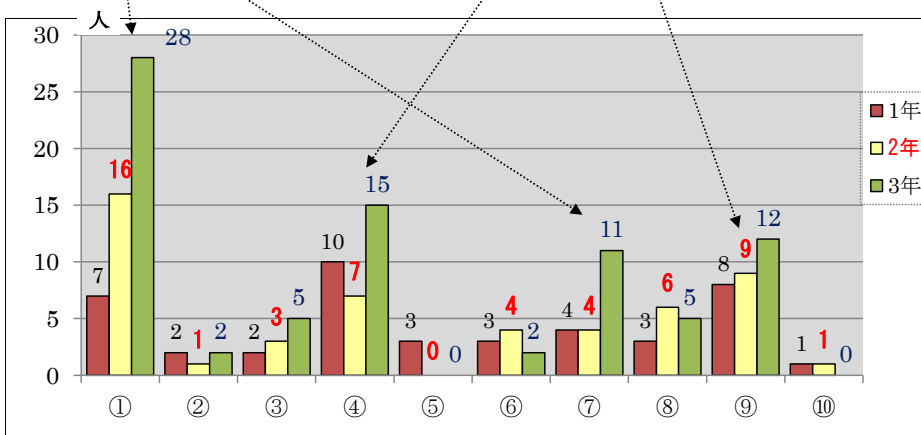
- ① 通学に便利 ② 進路実績 ③ 教育内容面 ④ クラブ活動面 ⑤ 寮がある ⑥ 施設設備がよい  
 ⑦ 町の支援(公営塾、海外研修等)がある ⑧ 親・家族の等の薦め ⑨ 友人関係 ⑩ その他

< 2校全体では >



< 学年別の人数では >

- ① 通学に便利 ② 進路実績 ③ 教育内容面 ④ クラブ活動面 ⑤ 寮がある ⑥ 施設設備がよい  
 ⑦ 町の支援(公営塾、海外研修等)がある ⑧ 親・家族の薦め ⑨ 友人関係 ⑩ その他



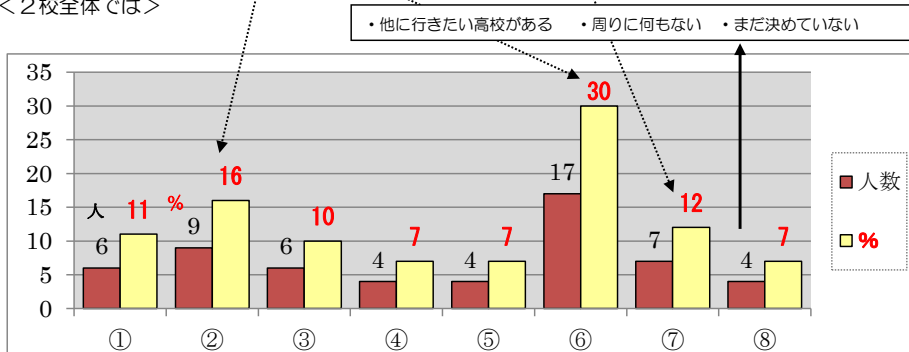
**考察** ・2校全体で多い順は、1位：① 通学に便利 (29%)、2位：⑨ 友人関係 (15%)、3位：⑧ 親・家族等の薦め (14%)、④ クラブ活動 (14%) であった。

・学年別では、①通学に便利、を除けば、④クラブ活動、⑨友人関係、⑦町の支援について3年生が油木高校の良さを多く感じているようである。これは3年生が体験入学や学校説明会などを通して、多方面にわたって情報を得ることによって油木高校の良さを感じているものと思われる。

(3) 3(1)の質問で「②(油木高校へ進学したいと) 思わない」と答えた人で、その理由と思うものを下の□の中から選んでください。(複数回答可)

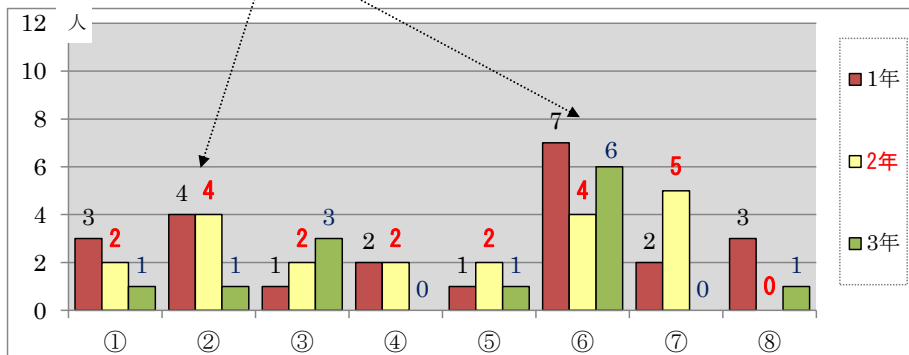
- |            |           |          |         |
|------------|-----------|----------|---------|
| ① 通学が不便    | ② 教育内容面   | ③ クラブ活動面 | ④ 施設設備面 |
| ⑤ 希望の学科がない | ⑥ 高卒後の進路面 | ⑦ 友人関係   | ⑧ その他   |

<2校全体では>



<学年別の人数では>

- |            |           |          |         |
|------------|-----------|----------|---------|
| ① 通学が不便    | ② 教育内容面   | ③ クラブ活動面 | ④ 施設設備面 |
| ⑤ 希望の学科がない | ⑥ 高卒後の進路面 | ⑦ 友人関係   | ⑧ その他   |



**考察** ・2校全体で多いのは、1位：⑥「高卒後の進路面」(30%)、2位：②「教育内容面」(16%)、3位：⑦「友人関係」(12%)となっており、例年とあまり差異はない。

・例年のごとく本年度も「(油木高校へ進学したいと) 思わない」理由の中で、⑥「高卒後の進路面」が一番多い。それだけに町内中学校での進路説明会時等に「油木高校卒業後の進路面」について、もっと丁寧に詳細な説明を行っていく必要があると思われる。また、「油木高校の進路指導や進路実績」を学校ホームページ等でしっかりと紹介していくことも必要である。

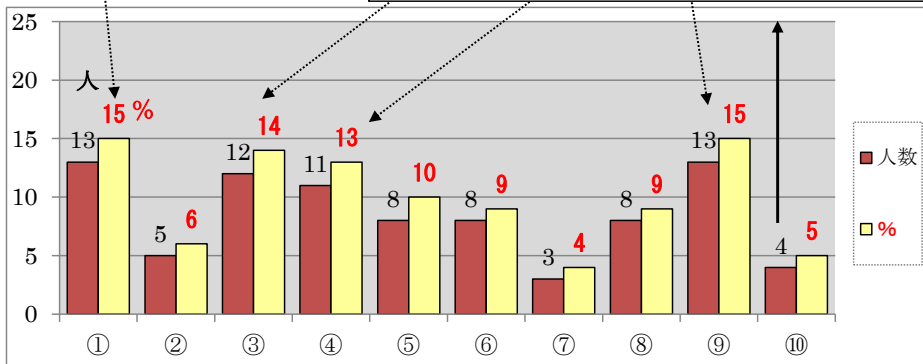
●各中学校において、油木高校生(特に出身中学生)が頑張っている姿を、機会あるごとに後輩中学生に語っていただいたり、直接高校生が中学生に話していく機会(例：高校進路説明会、油高生による進路学習会など)を増やすことができれば、大変効果があると思われる。(高校は中学校へ随時情報提供を行っていく。)

(4) 3(1)の質問で「③ わからない」と答えた人で、今後自分が進路選択する（高校を選ぶ）上で、重要視したいことはどんなことですか。 下記の①～⑩の中から重要視したいものを2つ選び、番号で教えてください。

- ① 通学便    ② 伝統や校風    ③ 進路実績    ④ 教育内容面    ⑤ 施設設備面  
⑥ クラブ活動面    ⑦ 市町からの色々な支援制度    ⑧ 親や家族のすすめ    ⑨ 友人関係    ⑩ その他

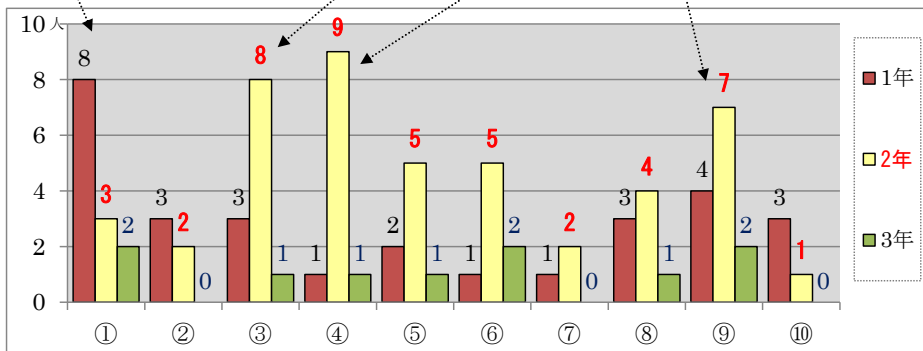
<2校全体では>

・家からの距離    ・行きたいところがない    ・治安が悪いかもしれない



- ① 通学便    ② 伝統や校風    ③ 進路実績    ④ 教育内容面    ⑤ 施設設備面  
⑥ クラブ活動面    ⑦ 市町からの色々な支援制度    ⑧ 親や家族のすすめ    ⑨ 友人関係    ⑩ その他

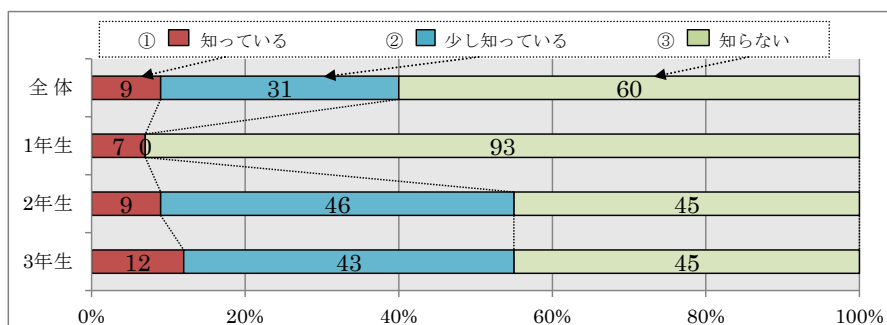
<各学年別の人数では>



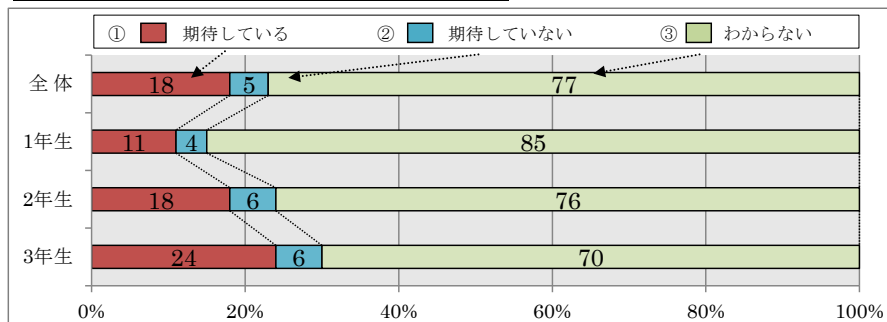
**考察** ・2校全体で多い順は、1位：①「通学便」、⑨「友人関係」(15%)、2位：③「進路実績」(14%)、3位：④「教育内容面」(13%)となっており、③、④が増加したように見えるが⑥「クラブ活動」(9%、昨年20%)が大きく減少した結果であり、あまり大差はない。  
・各学年別に見たときの特徴としては、1年生は①「通学便」に、2年生は④「教育内容面」、③「進路実績」、⑨「友人関係」に関心が高く、3年生は①「通学便」や⑨「友人関係」を上げている。



- 4 (1) 神石高原町では油木高校のさらなる魅力づくりを創出するために、「油木高校魅力化+プロジェクト」に取り組んでおり、その具体策（「総合的な探究の時間」の学習内容と指導法の開発、放課後「神ゼミ」など）を実施していますが、その「油木高校魅力化+プロジェクト」のことを知っていますか。

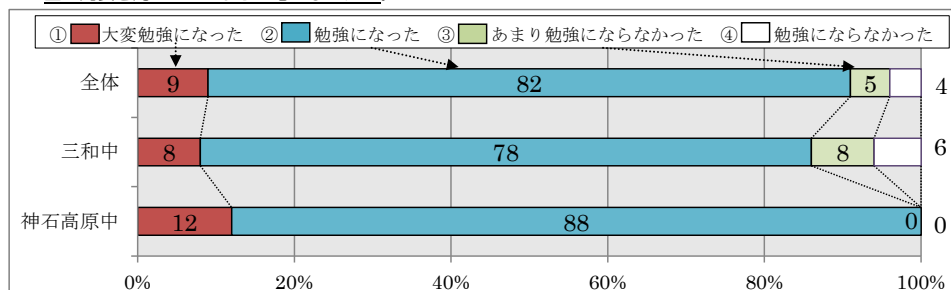


- (2) 「油木高校魅力化+プロジェクト」に期待感を持っていますか。



**考察**・中学生の「油木高校魅力化+プロジェクト」の認知度（知っている・少し知っている）は、全体で 40%（昨年 33%）と昨年度より上がっており、2・3 年生では 50%以上の認知度がある。  
「放課後 神ゼミ」が発行している情報紙「神ゼミニュース」を学校ホームページに掲載したり、全中学生に配布しているが、まだまだ知らない人が多いので、今後も粘り強く取り組んでいく必要がある。  
 ・中身を十分知らない中で、期待度を尋ねるのは少し無理もあるが、「油木高校魅力化+プロジェクト」の活動内容は、「やりたい自分」や「なりたい自分」を探究していく学習や活動で、将来に生きるキャリア教育に取り組んでいることを理解してもらう必要がある。

- (3) 本年度 12 月 20 日に油木高校が実施された「総合的な探究の時間」等の学習成果発表会に参加した生徒で、高校生の発表を聞いてどのように感じましたか。

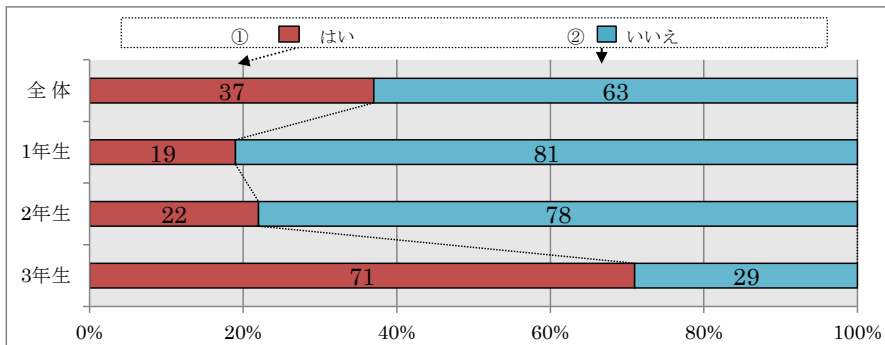


**考察** ・ほとんどの生徒が「大変勉強になった・勉強になった」との肯定的評価をしているが、ただ、「大変勉強になった」と回答したのは9%（昨年26%）であり、大きく減少した。

・参加した中学生にとっては、今後の学習に役立つものと思われる。また、油木高校の普通科、産業ビジネス科の学習内容について、少しは理解が進んだのではないと思われる。

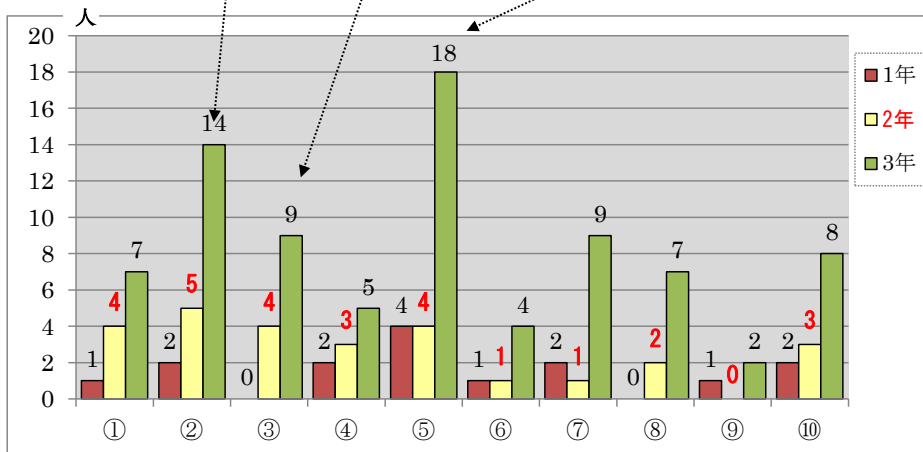
・「総合的な学習（探究）の時間」は中高連携教育の軸であり、小学校を含めた小・中・高が共に研究しながら、今後一層中身の充実を図っていく必要があるため、町研総合部会では、昨年度から小・中・高の12年間を視野に入れたカリキュラム作りについて（株）プリマベンギノに指導いただきながら研修を継続している。

⑤ (1) 油木高校のホームページを見たことがありますか。



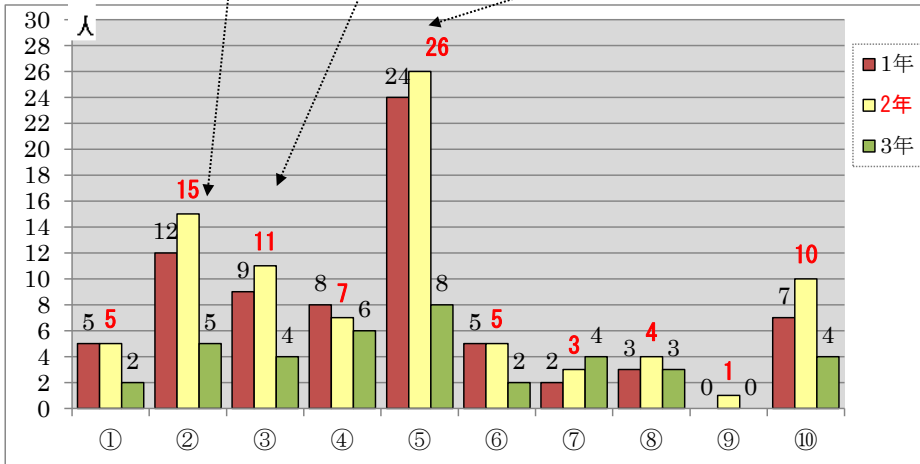
② 上記5(1)の質問で「①はい」と答えた人は、下の①～⑩の中で、どのコーナーに興味・関心を持って見ましたか。

- ① 新着情報 ② 学校案内 ③ 学科案内 ④ 施設紹介 ⑤ 学校生活 ⑥ 高校魅力化  
⑦ 連携型中高一貫教育 ⑧ 入学を希望される方へ ⑨ パソレットがカード ⑩ オーストラリア姉妹校連携



(3) 上記5(1)の質問で「①いいえ」と答えた人は、下の①～⑩の中で、どのコーナーに興味・関心がありますか。

- ① 新着情報    ② 学校案内    ③ 学科案内    ④ 施設紹介    ⑤ 学校生活    ⑥ 高校魅力化  
 ⑦ 連携型中高一貫教育    ⑧ 入学を希望される方へ    ⑨ パソコンの活用    ⑩ オーストラリア姉妹校連携



**考察** ・油木高校ホームページを見たことのある生徒は全体で37%（昨年度 35%）と半分を切っているが、中3生は71%（昨年度 56%）と、やはり高校への関心が高いことが伺われる。

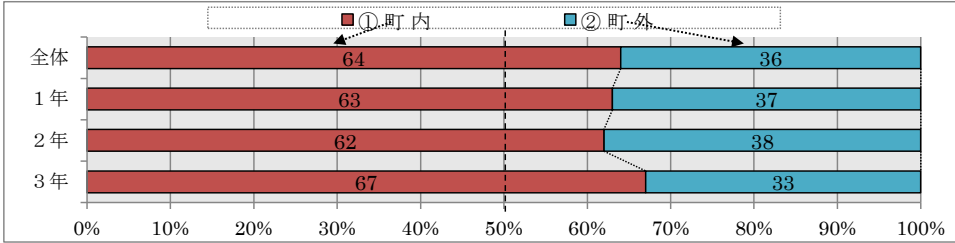
・「見たことがある生徒」で興味関心の高いものとしては、1位：⑤「学校生活」、2位：②「学校案内」、3位：③「学科案内」、⑦連携型中高一貫教育の順であり、例年同じような傾向にある。そうした中で、中学校3年生はどの項目にも関心をもって見ている生徒が多いようである。

・「見たことがない生徒」で、興味関心の高いものとしては、1位：⑤「学校生活」、2位：②「学校案内」、3位：③「学科案内」の順で、「見たことがある生徒」とあまり大差はなく、例年同様である。

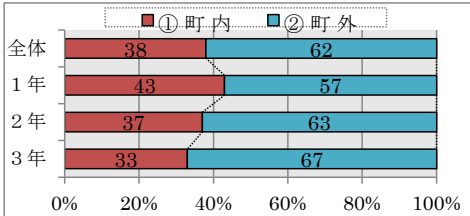
コメントの追加 [21]:

## 2. 油木高校生に係るアンケート調査の結果と考察

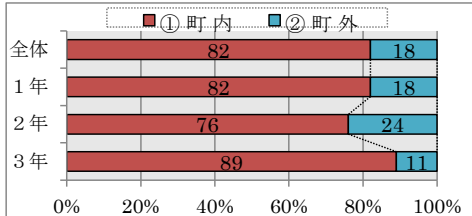
1 あなたの出身中学校は、どちらですか。 < 全体：学年別 >



< 学科別：産業ビジネス科 >



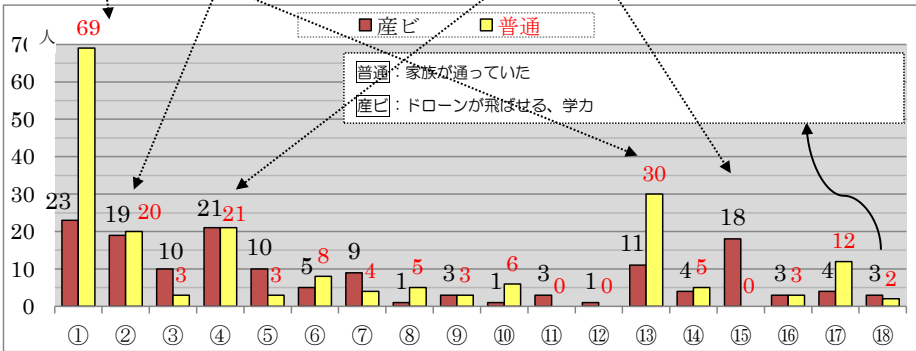
< 学科別：普通科 >



**考察** ・全体的には、6.4 対 3.6 で町内生徒が多いが、学科別でみると、産ビ科の町外生徒が 62%と断然多い。  
 しかし、中高一貫教育校になる前（H26年度以前）は、普通科への町外入学生徒はほとんどいなかったが、年によって数の増減はあるものの、本年度は1年生5人、2年生8人、3年生3人が通学している。

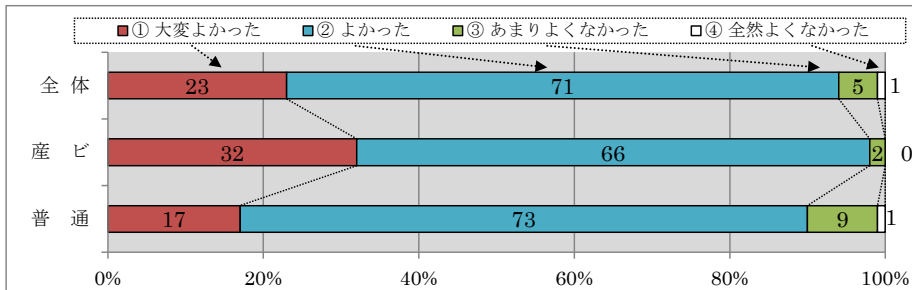
2 あなたが油木高校を進路選択した理由は何ですか。下の①～⑱から該当するものを全て選んでください。（複数回答可）

- ① 自宅から近い
- ② 親・家族の薦め
- ③ 先生の薦め
- ④ 自分の希望
- ⑤ 教育内容面
- ⑥ 部活動面
- ⑦ 寮がある
- ⑧ はやぶさ塾がある
- ⑨ 放課後神ゼミがある
- ⑩ 海外研修がある
- ⑪ 進路実績
- ⑫ 評判
- ⑬ 友人関係
- ⑭ 経費が安い
- ⑮ 学科への興味
- ⑯ 通学費の補助
- ⑰ 兄弟が通学している
- ⑱ その他（ ）



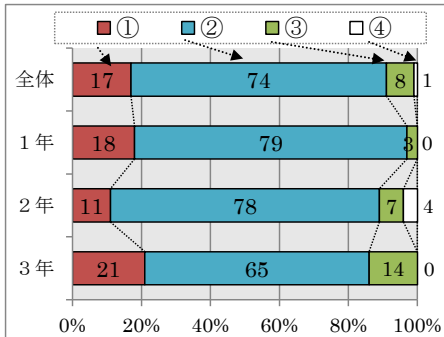
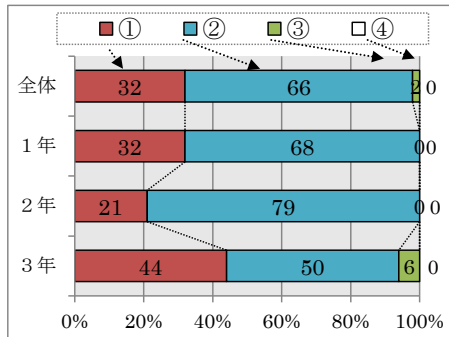
**考察** ・全体的には、①「自宅から近い」や⑬「友人関係」、④「自分の希望」、②「親・家族の薦め」が多い。  
 ・学科ごとで特徴的なのは、普通科では①「自宅から近い」⑬「友人関係」が産ビ科よりもかなり多く、産ビ科では⑮「学科への興味」③「先生の薦め」、⑤「教育内容面」が普通科と比して多いのが特徴である。

③ あなたは油木高校へ進学して、どうでしたか。



< 産業ビジネス科 >

< 普通科 >

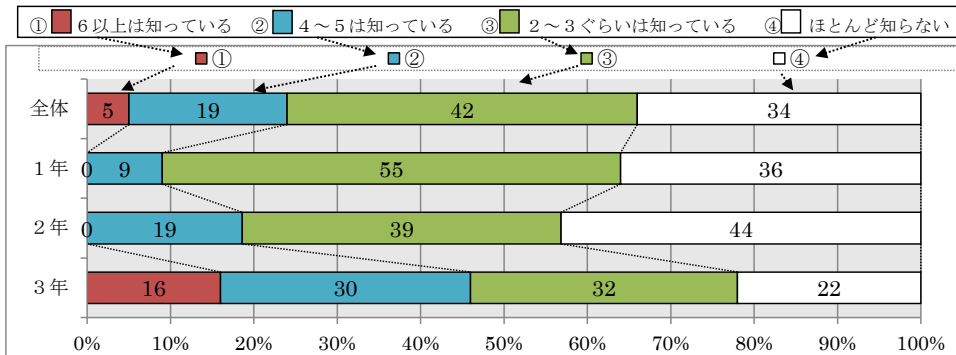


**考察**

- ・全体では、例年と同様に多くの生徒（94%：昨年90%）が「よかった」と肯定的回答をしている。
- ・学科ごとでは、「大変よかった」とする者が、産ビ科全体で32%（昨年28%）、普通科は17%（昨年21%）であった。反対に「よくなかった」とする否定的回答をしている生徒は、産ビ科2%（昨年10%）、普通科9%（昨年9%）であった。その中で、「全然よくなかった」とする生徒は、普通科に1%（1人）であった。
- ・学年、学科ごとでは、産ビ科の1・2年生が肯定的回答「よかった」が100%であった。昨年度との経年比較でみると、産ビ科3年の肯定的回答は（昨年89%→94%）、同じく2年生は（昨年94%→100%）、一方、普通科3年生は（昨年90%→86%）、2年生は（81%→89%）という回答率であった。

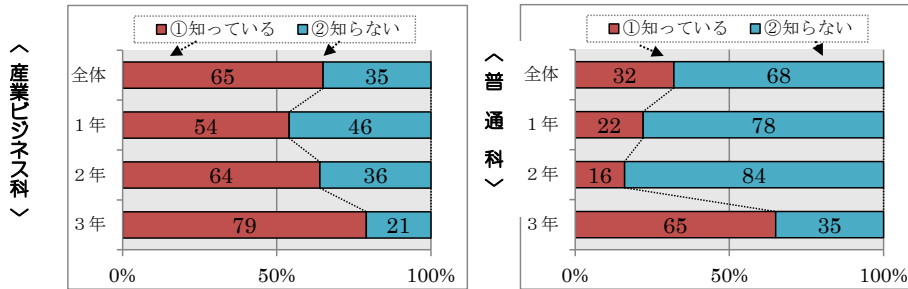
④ 本町では、油木高校の教育充実のために色々な支援を行っていますが、そのことについて次の質問に教えてください。

(1) 本町では本年度「油木高校生への8つの支援」を実施していますが、その内容について知っていますか。



考察 「6 以上は知っている」が全体で 5%（昨年 3%）と認知度が非常に低い。中でも「ほとんど知らない」が 34%（昨年 34%）で、毎年度新しいリーフレットを生徒並びに教職員へ配布しお知らせしているが、今後一層の周知活動に努めながら、油木高校の魅力をアピールしていく必要がある。なお、学校におかれても機会を捉えて生徒や保護者の方に紹介をお願いしたいと考えている。

(2) Q1 「はやぶさ塾」では、どんな方法で何の学習をしているのか知っていますか。



Q2 本年度、「はやぶさ塾」に参加した人だけ教えてください。→ あなたの受講状況を教えてください。

	前期・後期とも受講				前期だけ受講				後期だけ受講			
	1年	2年	3年	計(人)	1年	2年	3年	計(人)	1年	2年	3年	計(人)
産ビ科	0	1	1	2	0	1	1	2	0	0	0	0
普通科	4	5	0	9	0	0	3	3	0	0	0	0
計	4	6	1	11	0	1	4	5	0	0	0	0

Q3 「はやぶさ塾」に参加した人だけ教えてください → 参加してみた感想はいかがですか。

① 大満足 ② 満足 ③ 普通 ④ やや不満 ⑤ 不満

	普通科 (1・2・3年)	産ビ科 (1・2・3年)	計 (%)	理由
①	1人 (0・0・1人)	3人 (1・0・2人)	4人 (13%)	
②	9人 (4・3・2人)	1人 (0・1・0人)	10人 (31%)	(普)・自分のペースに合わせて進むので取り組みやすかった ・丁寧に分からないところを教えてくれる
③	13人 (1・7・5人)	2人 (0・1・1人)	15人 (47%)	(普)・家でやっても同じだから
④	3人 (0・0・3人)	0人 (0・0・0人)	3人 (9%)	(普)・自分のやりたい分野を勉強できるのは良いが、ただプリントをやるだけで教えてもらえない ・希望した学習をさせてもらえなかった
⑤	0人 (0・0・0人)	0人 (0・0・0人)	0人 (0%)	

**考察** ・はやぶさ塾での指導方法や内容に係る周知度は学科によってかなりの差があるが、年度初めの1年生オリエンテーションで塾長さんの方から中身についての説明をいただいたり、町内中学3年生は全員体験塾を本校で実施しているので、普通科1・2年生の周知度は高い。

・4年前から指導教科や時間帯を増やしているが、受講者数は16名（昨年：26名）で、そのうち通年者は11名（昨年：9名）と、減少している部分もあり、改善策を塾側や学校と協議しながら取り組んでいく。

・7月～3月までは、前半(16:00～18:00)・後半(18:30～20:30)の2部制で実施しているが、両方(4時間)とも受講している生徒は、極まれで(月平均1～2人)であるが、バス通学生にとっては好評のようである。

・受講者の評価としては、「大満足・満足」との肯定的評価は44%（昨年：22%）と評価は昨年よりも高くなった。やはり受講者が満足感をもって、できるだけ多くの生徒が受講するよう、塾側や学校と十分検討した上で、今後の取組を進めていきたい。

※1. 2年生のみ答えてください。

① 参加したい ② 参加したくない ③ わからない

Q4 来年度、「はやぶさ塾」に参加しますか。

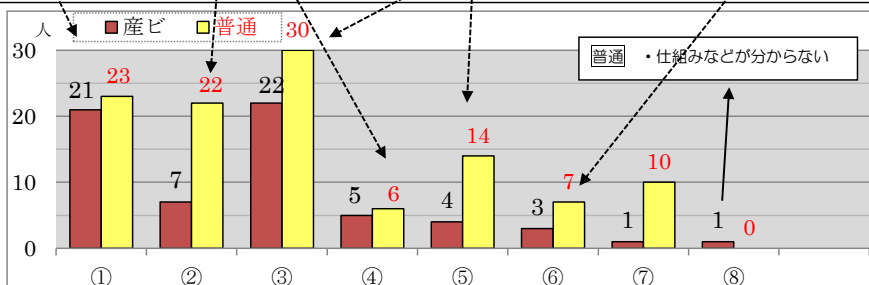
	(1) 普通科			(2) 産業ビジネス科			合計 (1)+(2)
	① 1年生	② 2年生	①+② (%)	③ 1年生	④ 2年生	③+④ (%)	
① 参加したい	4人	3人	7人 (12%)	0人	1人	1人 (2%)	8人 (8%)
② 参加したくない	5人	11人	16人 (27%)	6人	10人	16人 (39%)	32人 (32%)
③ わからない	19人	18人	37人 (61%)	17人	7人	24人 (59%)	61人 (60%)

**考察** 現時点での「受講希望者」は、8人（昨年：6人）とかなり少ない。しかし、4月から学校側の協力もいただきながら実施されるので、その推移を見ていく必要がある。指導者2人態勢により、それを有効に活用したコース制(フリーコース、4大コース)を行っていく。

※ 「はやぶさ塾」に参加していない人だけ答えてください。

Q5 「はやぶさ塾」に参加していない理由は何ですか。下の①～⑧の中で当てはまるものをすべて選んでください

- ① 必要性を感じない ② 部活動の後は学習意欲がわからない ③ 20時30分終了だと帰宅手段(バス・迎え)がない ④ 塾の勉強の仕方が自分に合わない ⑤ 自分一人で勉強したい ⑥ 塾に行く時間がない ⑦ 受講料が高い(半期：1万円) ⑧ その他



**考察** ・産ビ科・普通科共に「参加していない理由」の多くは①「必要性を感じない」、②「部活動の後は学習意欲がわかない」、③「帰宅手段がない」、⑤「自分一人で勉強したい」、といったもので、例年と変わらない。

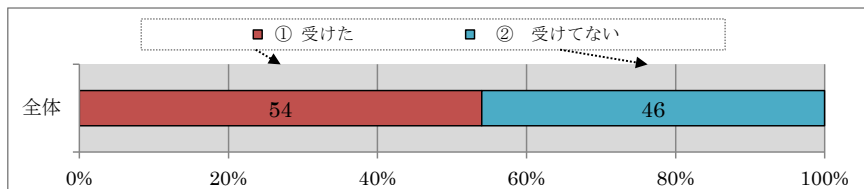
(3) 本町では油木高校生に対して各種検定受検料の補助(合格者のみ)をしていますが、令和5年2月～令和6年1月の期間で、これらの制度を利用したことがありますか。

	普通科				産業ビジネス科				総計 (人)
	1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計	
英語検定	9	6	8	23	0	1	2	3	26
漢字検定	3	6	8	17	0	2	2	4	21
数学検定	1	0	0	1	0	0	2	2	3
小型車両系建設機械(整地等) 小型フォークリフト特別教育講座	0	0	0	0	0	7	10	17	17

**考察** ・科ごとに利用者数の違いはあるが、本年度も両学科共に英検・漢検・小型車両系建設機械・小型フォークリフト特別講習の利用者があった。しかし、数学検定の利用者は両学科ともに少数であった。

(4) 町外からバス通学している生徒で、本年度「定期券購入費の50%補助」を受けましたか。

(本年度の町外生徒は 56名 → 内30名が受けている)



<本年度入寮者の概要>

\* ( ) 内数は町内生徒数

学年	男子 (最大収容人数: 31人)			女子 (最大収容人数: 12人)		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年
人数	9人(0)	9人(0)	4人(0)	1人(1)	4人(1)	0人(0)
計	22人(0)			5人(1)		

**考察** ・補助利用者は30人(54%)で、利用していない町外生は26人(46%)である。非利用者の多くは寮生(寮の町外人数: 男子22/22人・女子3/5人)のようなので、寮生を除いた利用率は約97%で、非常に高い利用率である。この制度は町外の関係者から歓迎されており、油木高校の大きな魅力の一つではある。ただ、R5年4月からバス運賃が値上がりしたため、小・中学校保護者アンケートの回答の中に、運賃助成の継続を要望される方が数名あった。



(5) 次の質問については、1、2年生のみ答えてください。

Q1 来年度、オーストラリア海外研修への参加希望がありますか。 ① 希望あり ② 希望なし ③ わからない

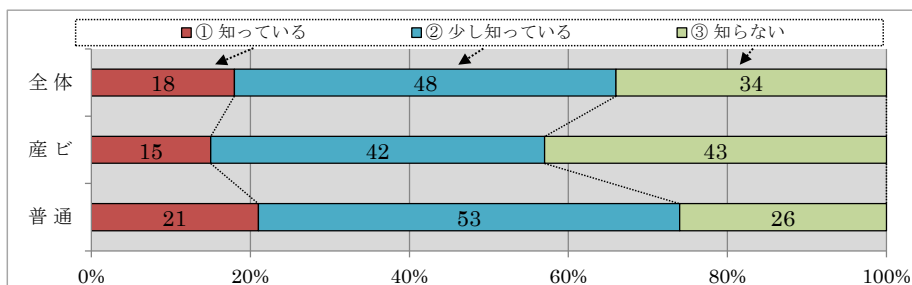
	(1) 普通科			(2) 産業ビジネス科			合 計 (1)+(2) (%)
	① 1年生	② 2年生	①+② (%)	③ 1年生	④ 2年生	③+④ (%)	
① 希望あり	7人	7人	14人 (23%)	3人	2人	5人 (10%)	19人 (17%)
② 希望なし	11人	7人	18人 (30%)	13人	17人	30人 (59%)	48人 (43%)
③ わからない	10人	19人	29人 (47%)	11人	5人	16人 (31%)	45人 (40%)

Q2 「希望あり」と答えた生徒で、第一希望の研修期間はどちらですか。 ① 短期（2週間） ② 長期（10週間）

	(1) 普通科			(2) 産業ビジネス科			合 計 (1)+(2)
	① 1年生	② 2年生	①+②	③ 1年生	④ 2年生	③+④	
① 短 期	4人	5人	9人	2人	0人	2人	11人
② 長 期	3人	1人	4人	1人	0人	1人	5人

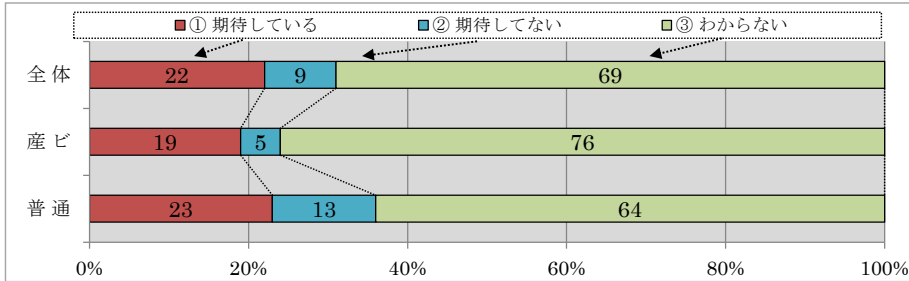
考察 ・現段階で「参加希望有り」と回答した生徒は、19名（昨年13名）で、その中で短期が11名、長期が5名と回答している。いずれにせよ、定員数をオーバーしており、今後も増える可能性がある。  
ただ、コロナの影響で3年間実施できなかったが、令和5年に再開。今後は制度拡充の方向で検討していきたいと考えている。

(6) Q1 神石高原町では油木高校のさらなる魅力づくりを創出するために「油木高校魅力化+（プラス）プロジェクト」に取り組んでいます。その具体策（「総合的な探究の時間」の学習内容と指導法の開発、放課後「神ゼミ」などを現在、実施中ですが、その「油木高校魅力化+（プラス）プロジェクト」のことを知っていますか。



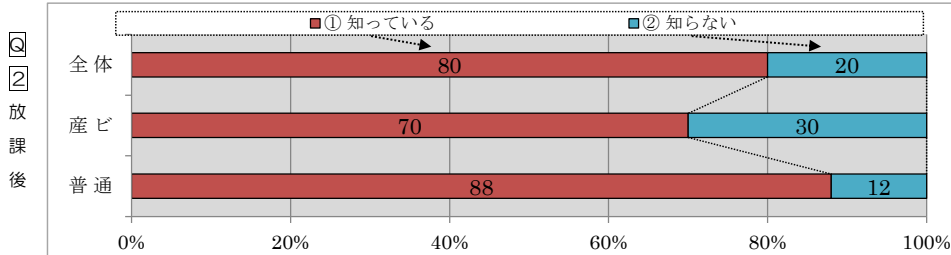
考察 ・前年度の「知っている・少し知っている」の認知度は（全体：65%、産ビ：51%、普通：73%）であったが、本年度は（全体：66%、産ビ：67%、普通：74%）と前年とあまり大差はない。油木高校ホームページも刷新され、「高校魅力化」コーナーを設けて情報提供されている。「総合的な探究の時間」の取組状況なども掲載されており、充実したホームページとなっている。

Q2 「油木高校魅力化+(ﾌﾗﾝｸﾞ)ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」に期待感をもっていますか。

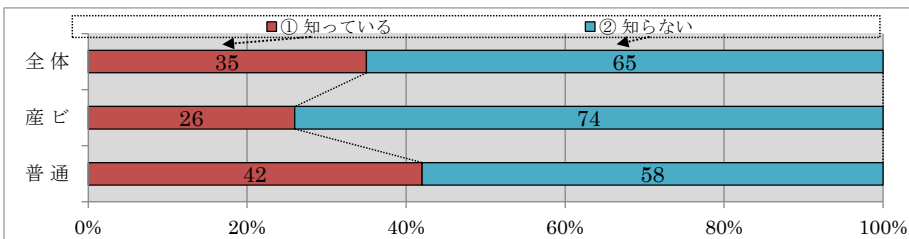


考察 ・昨年度の生徒の期待度は全体で「期待している：26%、期待していない：11%、わからない：63%」であったが、本年度は減少傾向にある。しかし、生徒が学習している「探究的な学習の時間」への関心・意欲・態度はどの学年も高まっていると感じられる。

(7) Q1 放課後「神ゼミ」が実施されていることを知っていますか



「神ゼミ」では、どんなことをしているか知っていますか。



Q3 本年度、放課後「神ゼミ」を受講したことがありますか。 ※( )内は昨年度の人数

	産業ビジネス科	普通科	計
	受講したことがある	受講したことがある	受講したことがある
1年生	2人 (0人)	2人 (1人)	4人 (1人)
2年生	0人 (3人)	3人 (4人)	3人 (7人)
3年生	4人 (6人)	7人 (1人)	11人 (7人)
計	6人 (9人)	12人 (6人)	18人 (15人)

Q4 放課後「神ゼミ」を受講した人は、どんな感想をもちましたか。

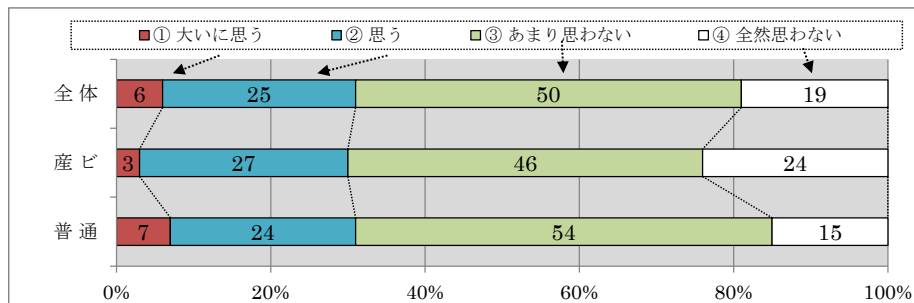
	① 大変勉強になる		② 勉強になる		③ あまり勉強にならない		④ 勉強にならない	
	産ビ	普通	産ビ	普通	産ビ	普通	産ビ	普通
1年生	0	0	2	2	1	0	0	1
2年生	1	0	0	4	4	0	1	0
3年生	2	0	4	5	0	2	1	1
計	3人	0人	6人	11人	5人	2人	2人	2人

**考察** ・放課後「神ゼミ」の知名度は向上しているようであるが、どのような活動をしているのか内容の理解がまだ少ない。(26%→35%)。このような状況の中で、指導者は生徒に色々な声掛けなり仕掛けをしながら取り組まれているようである。その様子は「神ゼミにゆうす」等に掲載されている。

・しかし、受講者が少ないだけに、今後も粘り強く増える取組や作戦を考えていく必要がある。そして、今後も研鑽を積みながら、実績の見える化(外部の発表大会等での入賞)を図っていく必要がある。

・放課後「神ゼミ」は、「油木高校魅力化+P」の目玉でもあるので、より多くの生徒が受講し、中身も充実したものになるよう、実績のある(株)プリマベンギーンの指導や支援を今後もお願いしていきたい。

5 (1) あなたは、将来、神石高原町に住んでみたいと思いますか。

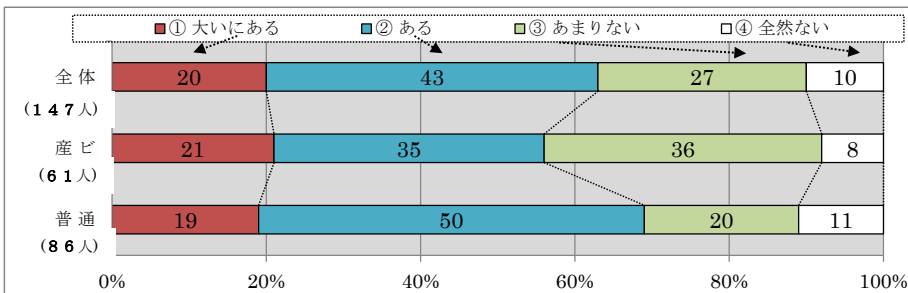


	普通科 (人)				産業ビジネス科 (人)				全体
	1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計	
① 大いに思う	3	1	2	6 (7%)	2	0	0	2 (3%)	8 (6%)
② 思う	6	7	8	21 (24%)	7	3	6	16 (27%)	37 (25%)
③ あまり思わない	13	18	15	46 (54%)	11	8	8	27 (46%)	73 (50%)
④ 全然思わない	6	4	3	13 (15%)	5	6	3	14 (24%)	27 (19%)
小計	28	30	28	86	25	17	17	59	145

**考察** ・全体では、①「大いに思う」が6%（昨年7%）と1割に満たない。人数では8人（昨年10人）である。そして、「思う」は25%（昨年28%）で、肯定的回答は約3割である。一方、「あまり思わない・全然思わない」の否定的回答は69%で、約7割を占めている。この数値は前年と比較し悪化傾向にある。

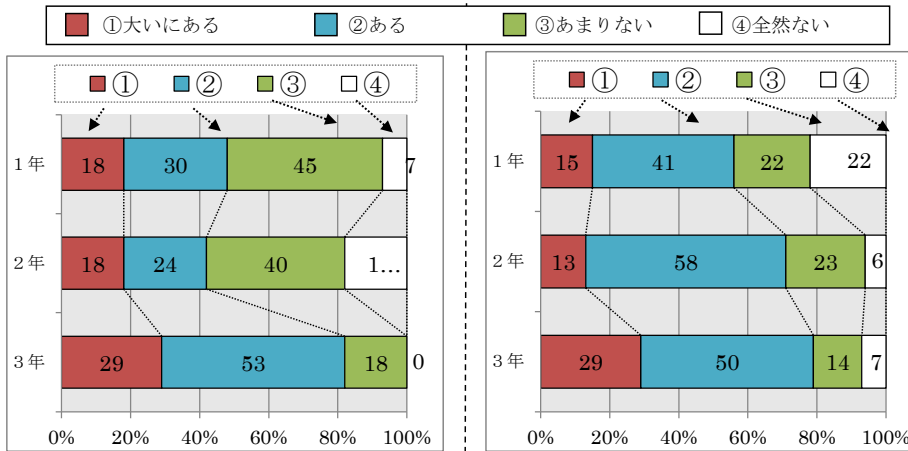
・学科別においても、「大いに思う・思う」は両科ともほぼ同率であるが、否定的回答の「全然思わない」（普：15%、産ビ：24%）と大きく違うのは、産ビ科生の約6割が町外生であることが影響していると考えられる。

(2) あなたは、自分の地元で貢献したいという気持ちがありますか。



< 産業ビジネス科 >

< 普通科 >



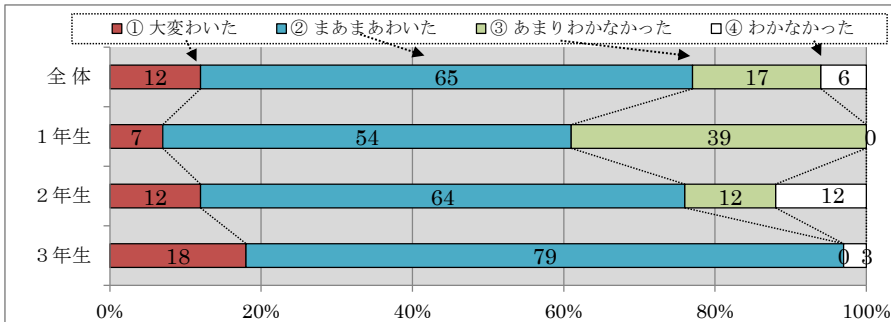
	産業ビジネス科 (人)				普通科 (人)				総計
	1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計	
① 大いに	5	3	5	13 (21%)	4	4	8	16 (19%)	29 (20%)
② ある	8	4	9	21 (35%)	11	18	14	43 (50%)	64 (43%)
③ あまりない	12	7	3	22 (36%)	6	7	4	17 (20%)	39 (27%)
④ 全然ない	2	3	0	5 (8%)	6	2	2	10 (11%)	15 (10%)
小計	27	17	17	61	27	31	28	86	147

**考察** ・全体では、地域貢献意欲が「大いにある」と回答した生徒が20%（昨年18%）で、「ある」を含めた肯定的回答は63%（昨年72%、一昨年69%）で約2/3と、増減を繰り返している。

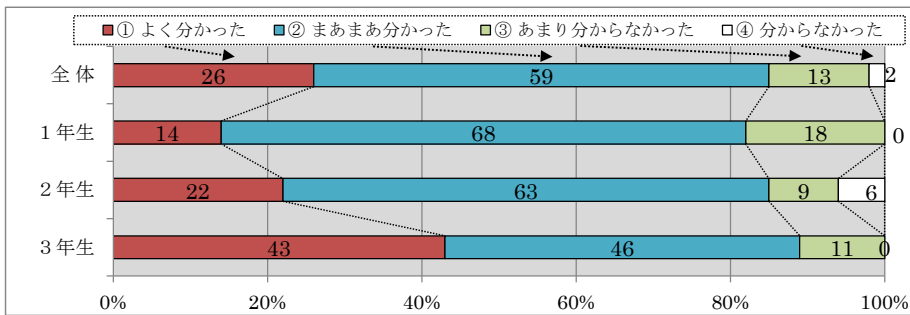
- ・学科別では、地域貢献意欲が「ある・なし」の割合では、やや普通科の肯定的回答率が高い。
- ・学科別&学年別では、肯定的回答が70%以上は、産ビ科1クラス、普通科2クラスであった。

⑥ 本年度の「総合的な探究の時間」について質問します。 \*普通科の1～3年生のみお答えください。

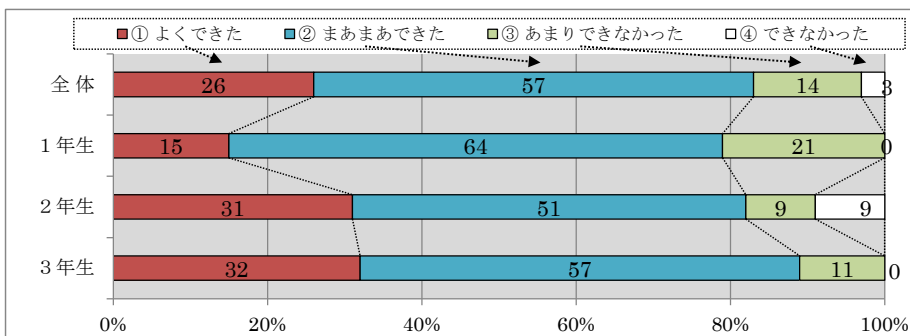
(1) 学習内容について興味や学習意欲がわきましたか。(興味・関心・意欲)



(2) 授業内容は分かりましたか。(理解度)



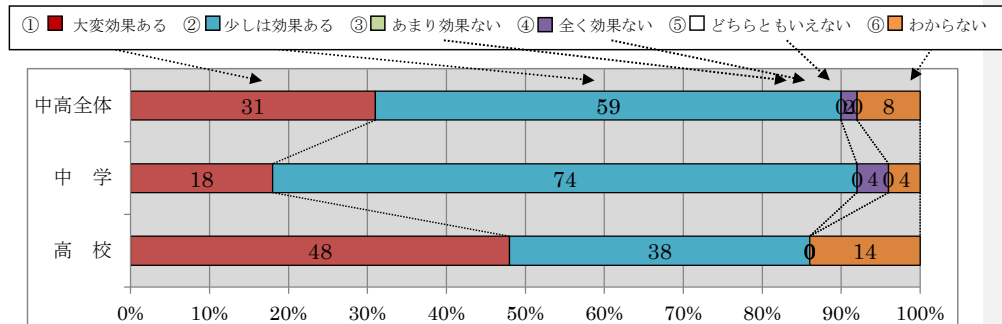
(3) 授業では積極的に学習活動ができましたか。(態度・活動面)



**考察** ・普通科の全学年に「総合的な探究の時間」について、(1)で興味・関心・意欲、(2)で理解度、(3)で態度・活動面をそれぞれに質問したのですが、基本的にはどの項目についても70%以上の肯定的回答であった。その中で、(2)理解度、(3)態度・活動面は80%以上の生徒が肯定的回答で高い自己評価をしていた。

### 3. 町内中学校・油木高校教職員に係るアンケート調査の結果と考察

1 本町では油木高校のピーアールや魅力化のために、広報紙「中高一貫教育」や「高原の風」、神石高原町が実施している油木高校生への8つの支援、「油木高校ガイドブック」などを制作し、町民や関係保護者に配布していますが、これらのことについてどう思われますか。

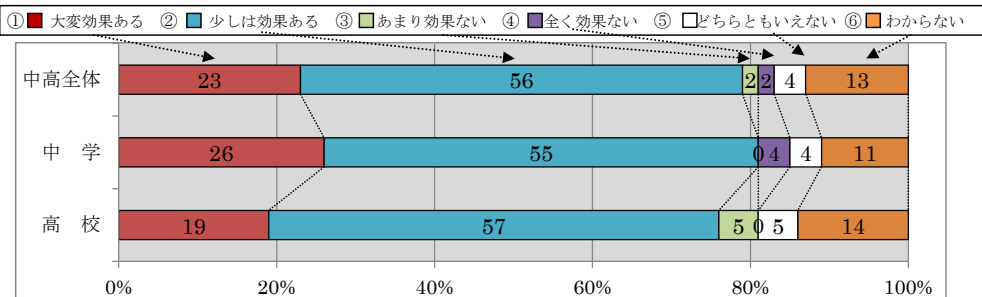


**考察** 全体では、「大変効果がある・少しは効果がある」の肯定的回答は90%（昨年87%）で多くの方が評価されている。いずれにしても、油木高校に係る情報は町民や関係保護者等に知らせていくことは必要であると考えます。

2 中高連携の中で、交流授業、部活動交流、学校行事への参加、教職員の交流などが実施されていますが、連携教育の効果についてどう思われていますか。

(1) 定例的交流授業

（高→中：英語、中→高：音楽・英語）について、どう思われていますか。

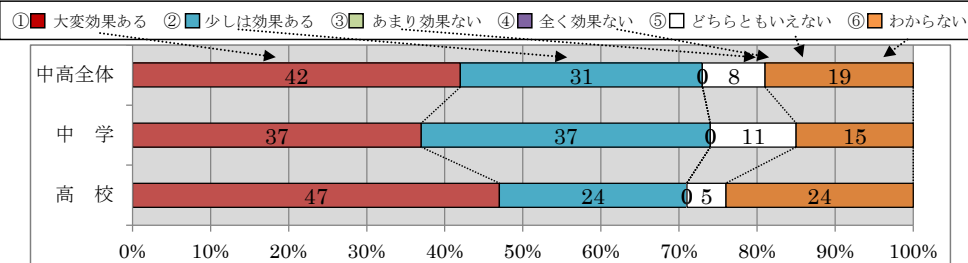


<推進上の課題>

**（中）** ・授業前後に意見交流の時間設定をし、目指すところを確認しながら進められるとよい ・平日に学校に穴が開くことが多く、先生方の負担が増えている ・常勤の職員が少ない中で校内にいない日（時間）が多いため、校内の業務に制約が多い ・何の意味があるのか分からない ・日程調整

**（高）** ・他教科への拡大（年に1・2回程度でもよいので） ・他教科には取組内容が分からない ・単なるサポート役としてではなく中高の教員それぞれが主になった授業展開ができてよいと考える ・英語については連携分講師に依存するのであれば本末転倒のように感じる

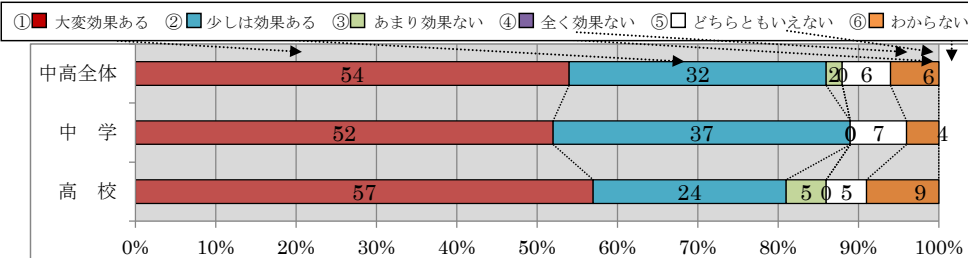
(2) 部活動交流について、どう思われていますか。



<推進上の課題>

- (中) ・テニスコートの使用のあり方 ・日程調整  
 (高) ・神高中とは年1回交流があるが三和中とはない(卓球部) ・サッカー部は交流がない  
 ・交通(バス)により気軽に交流を行えない

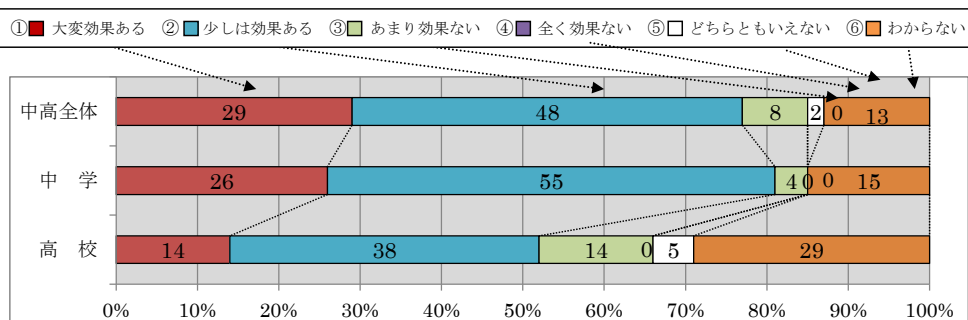
(3) 学校行事(オープンスクール・学習成果発表会など)への参加について、どう思われていますか。



<推進上の課題>

- (中) ・中2の産ビ体験については見直し ・日程調整  
 (高) ・高校の取組を知ってもらう上で効果的である

(4) 教職員の交流(教科部会・教科外部会など)について、どう思われていますか。



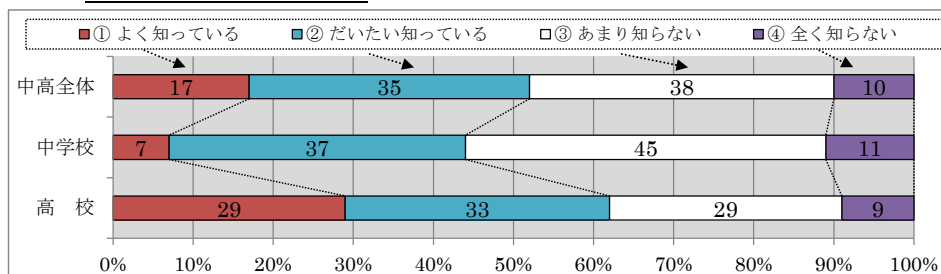
<推進上の課題>

- (中) ・中学校の交流も必要 ・小中連携をもっと強化すべきではないかと考える ・日程調整  
 (高) ・

**考察** ・中高全体では、多くの項目が「①大変効果がある、②少しは効果がある」とする肯定的回答が70%以上あるが、多くの質問で肯定的評価は減少傾向にある（交流授業 79→77%、部活動交流 80→73%、学校行事 98→86%、教職員交流 87→77%）。その原因はどこにあるのか、またその解決策について町研教科部会等で検討していく必要がある。

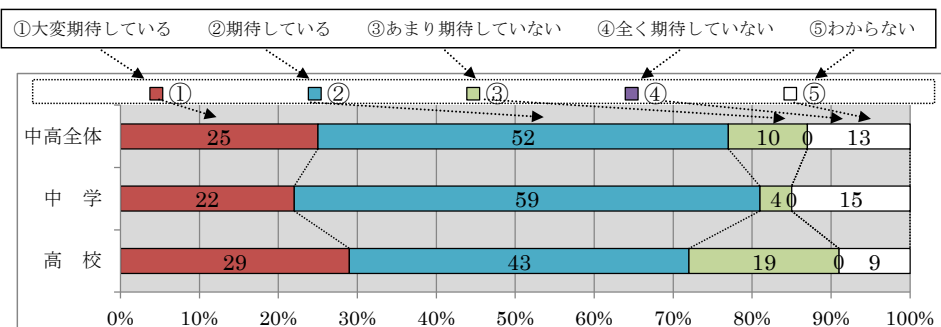
・本年度も各質問項目に関わる「推進上の課題」について、いろいろとご意見をいただいている。いずれも教育内容に関わるものであり、中高一貫教育推進委員会を中心として、校長会や事務局会等で検討し、今後の方向性を検討する上で参考としたい。また、教科に関わっては町研教科部会などでも話し合う必要がある。

③ 本町と油木高校では、慶應大学との連携協力協定事業の一つとして「油木高校魅力化+プロジェクト」に取り組んでいますが、その取組内容を知っておられますか。



**考察** ・「油木高校魅力化+プロジェクト」の取組内容の認知度は、前年度比較では、高校は変わりなく（62%→62%）、中学校では44%（昨年：52%）と低下している。高校には隣プリマベンギーノに直接入っていただき、「総合的な探究の時間」、「神プロ」を中心とした教育の充実に取組んでいることをもっと知っていただく必要がある。

④ 「油木高校魅力化+プロジェクト」では、「総合的な探究の時間」にその地域や学校でなければ学べない独自のカリキュラム開発に取り組み、地域と連携した「地域課題発見・解決型キャリア教育」を推進しようとしていますが、そのことへのどの程度期待感をもっておられますか

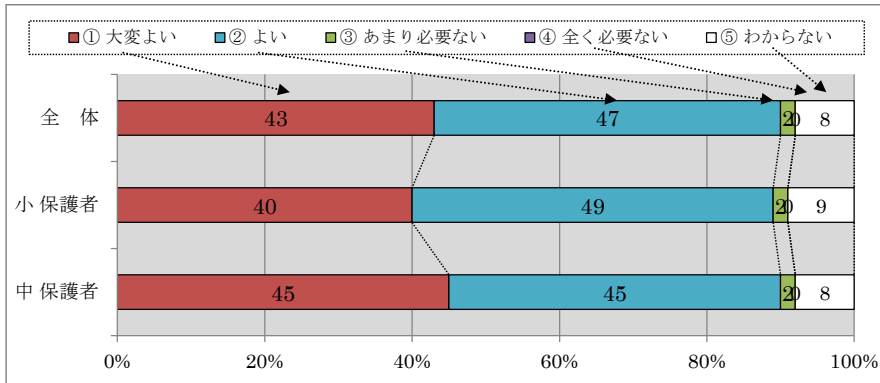


**考察** ・中高全体では、「大変期待している」・「期待している」の肯定的回答が77%（昨年：82%）と昨年よりやや下がったものの高い評価で、期待度の高いことが伺われる。 ・中高別では、「大変期待している」・「期待している」の肯定的回答が、昨年から中学校の方が高く、本年度も9%程中学校の方が高い。ただ「大変期待している」は高校が7%（昨年：19%）高く、中学（昨年：32%）と逆転した。



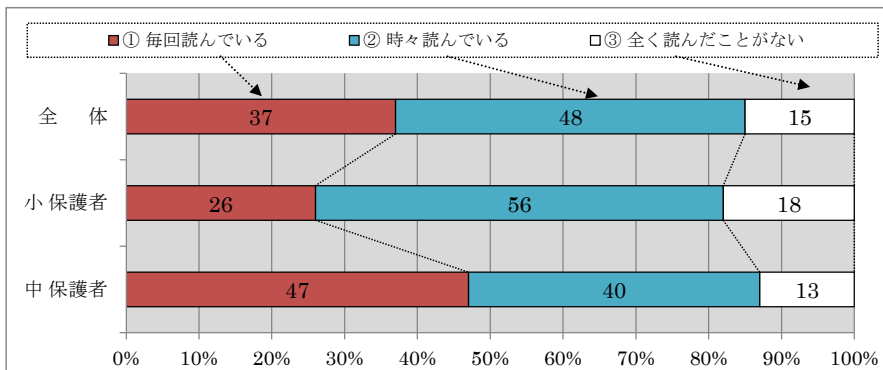
#### 4. 小学校(4～6年生)・全中学校 保護者 に係る調査の結果と考察

- ① 油木高校と町内中学校との連携教育（例：中高交流授業、部活動交流、学校行事への相互参加、教職員の交流など）が実施されていますが、そのことについてどう思いますか。



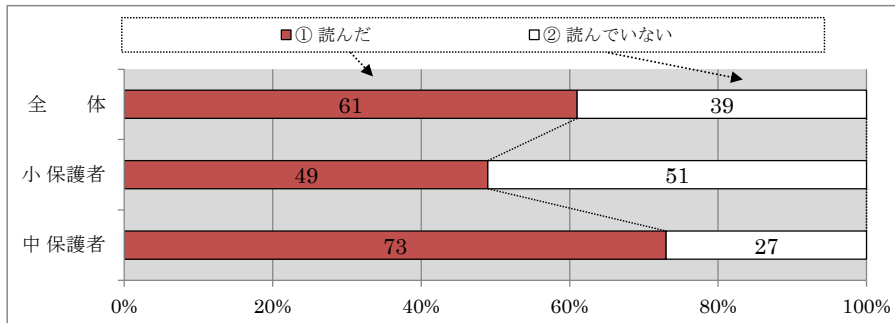
**考察** 全体としては「大変よい・よい」とする肯定的回答90%（昨年92%）と非常に高い評価である。一方、「わからない」とする数値が8%（昨年6%）と前年より少し高くなっている。しかし、今後も関係保護者への情報提供は、広報紙『中高一貫教育ジャーナル 高原の風』で連携教育の取組みを紹介したり、ケーブルテレビの活用（次世代議会など）を図って、一層の情報提供に努めていかなければならない。

- ② 広報紙「連携型中高一貫教育ジャーナル『高原の風』」を年3回町内全戸に配布していますが、読んでおられますか。



**考察** 多くの保護者にだいたい読んでいただいている肯定的回答は85%（昨年90%）で、「全く読んだことがない」は15%（昨年10%）と増加になった。ただ、小学校保護者と中学校保護者を比較した時、毎年10%ぐらいい小学校が低いのは、高校への関心度によるものと思われる。いずれにせよ、今後においても魅力ある中身づくりに努めていく必要がある。

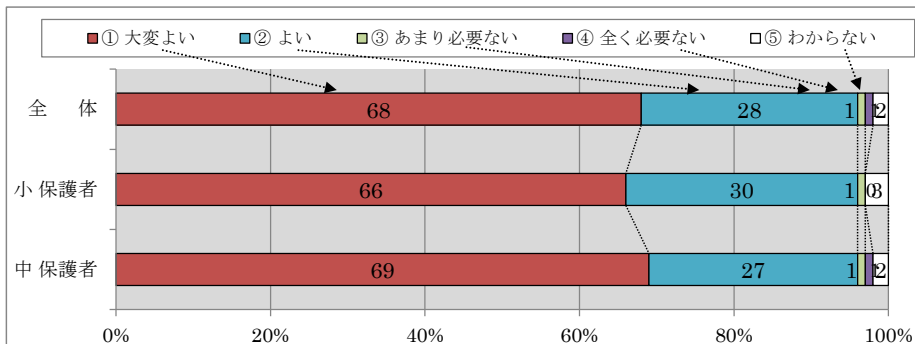
③ 昨年、町内全戸に配布した『神石高原町が実施している油木高校生への8つの支援』リーフレットを読まれましたか。



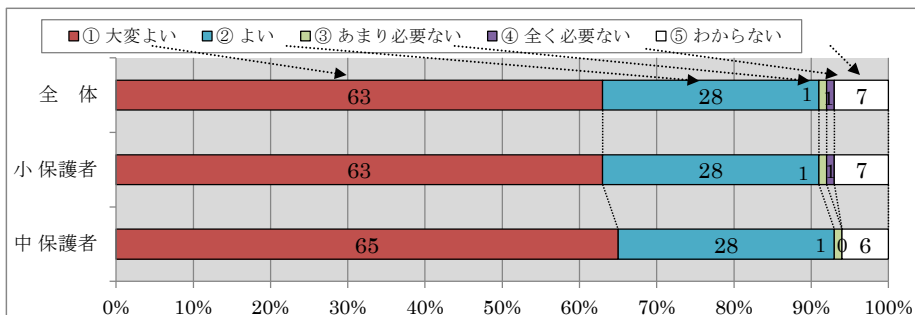
考察 全体としては、61%（昨年 68%、一昨年 69%）読まれており、「中高一貫教育ジャーナル 高原の風」よりも関心が薄いようである。この「油木高校生への8つの支援」は、油木高校の一つの魅力でもあるので、関係保護者にもっと知ってもらえるよう、今後もリーフレットの配布は継続し、尚且つ高校進路説明会などでも高校や町からのPRをしていく必要がある。

④ 本町が油木高校の魅力策として様々な教育支援を実施していますが、それらについて、次の質問にお答えください。

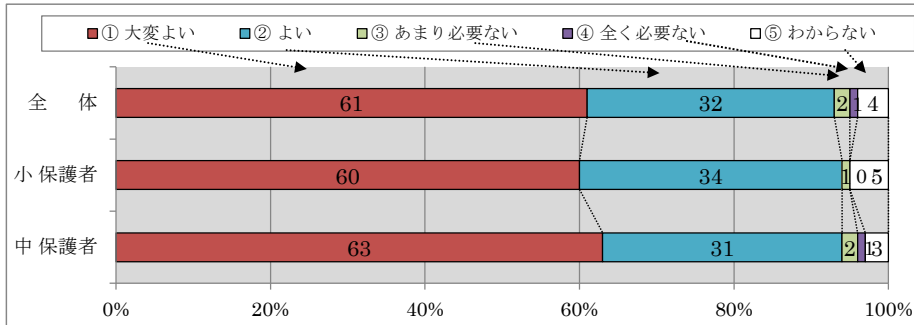
(1) 部活動での遠征費補助について、どう思いますか。



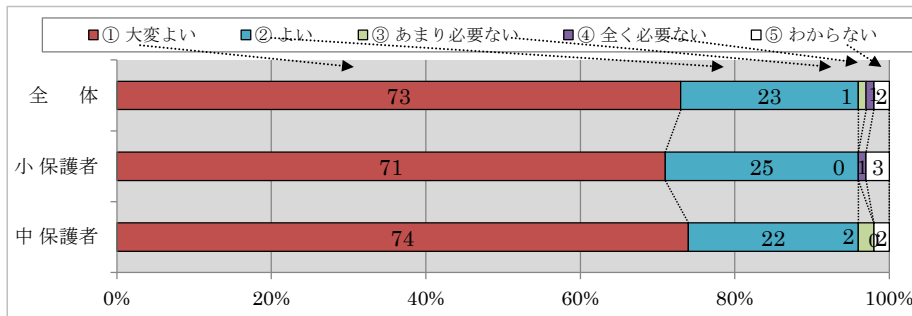
(2) 油木高校内での学習支援塾（はやぶさ塾・神ゼミ）の開設について、どう思いますか。



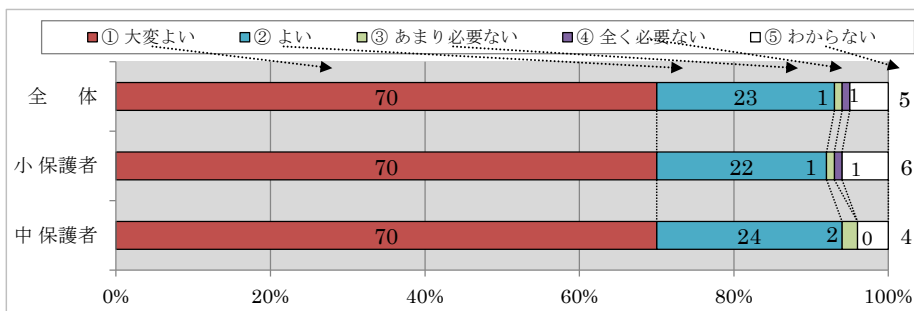
(3) 海外（短期・長期）研修事業への支援について、どう思いますか。



(4) 各種検定受験料の補助（ただし合格者のみ）について、どう思いますか。



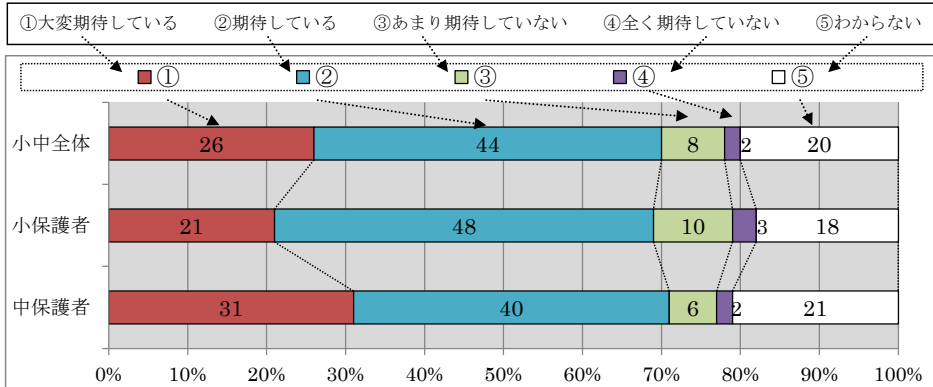
(5) 町外生徒へのバス定期券購入補助（令和4年度の町内生徒へは一乗車300円、1ヶ月定期券9,000円の補助）



考察・本年度もすべての項目で、90%以上が「大変よい・よい」の肯定的回答で、非常に高い評価を受けている。

- ・ 小、中学校別で見た時、あまり数値に大きな差（0～3%）はない。
- ・ このように多くの項目において保護者の期待度が高いことが分かる。油木高校への進路選択の理由に「町の補助がある」項を上げておられる保護者も多い。（28ページ参照）それだけに、今後とも支援制度の維持や中身の充実を図りながら、更なる油木高校の魅力づくりに繋げていく必要がある。

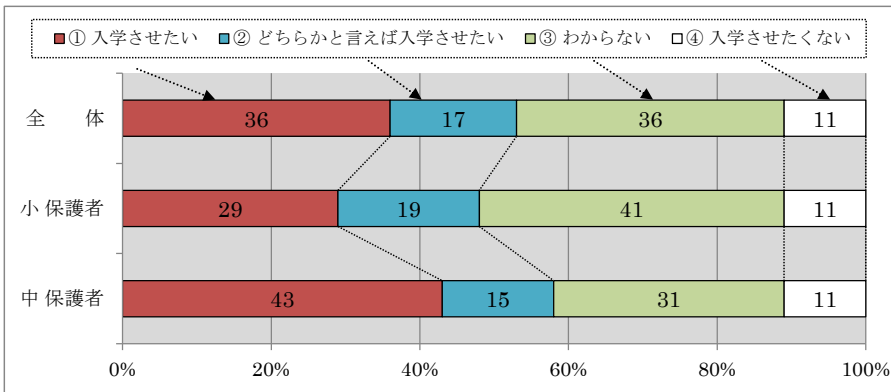
⑤ 本町では現在、慶應義塾大学との連携協力協定事業の一つとして「油木高校魅力化プロジェクト」に取り組み、具体策（総合学習の kurikulum 開発・放課後「神ゼミ」など）を実施中ですが、この事業にどの程度期待感を持っておられますか。



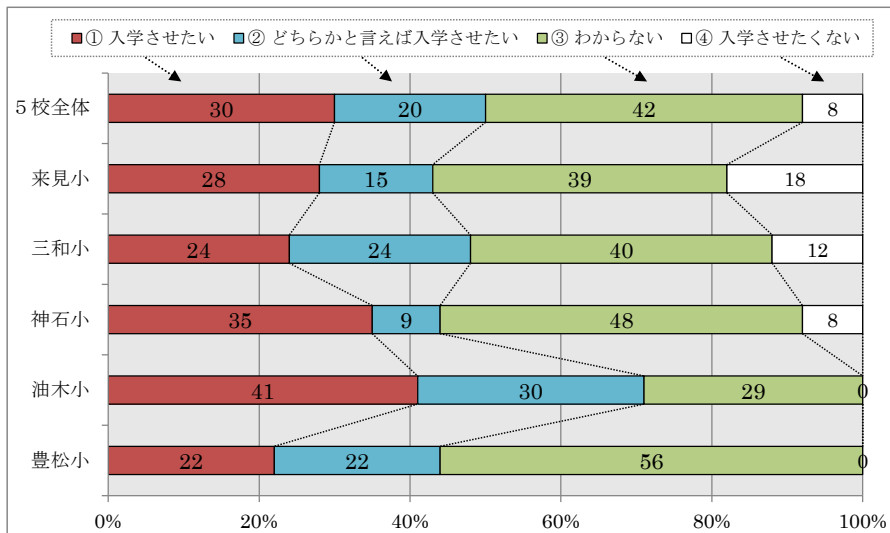
**考察** ・小中の保護者全体では、「大変期待している・期待している」の肯定的回答が 70%（昨年 71%）と、昨年同様に高い評価である。

- ・小中保護者別でも、それぞれの回答数値にあまり大差はない。
- ・本事業の中身について、保護者に十分な情報提供や説明をすることができなかった中での数値だけに、重く受け止めていかなければならない。本年度、(株)プリマペンギノ等により本事業の中身なり進捗状況について地域・保護者の方々にお話しいただく「中高一貫教育講演会」を計画。3月実施となった。
- ・本事業は地域創世のための「油木高校魅力づくり」で、「神石高原町の地域づくり」につながるものでもあるので、今後も地域・関係者等へ色々な形（情報紙、高校説明会等、ホームページ、講演会など）で情報提供していく必要がある。

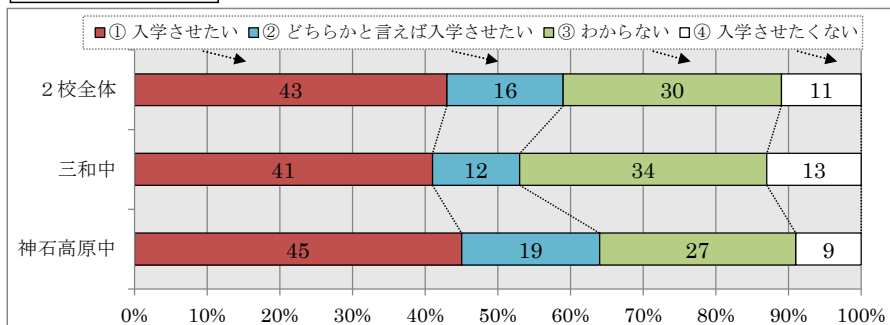
⑥ (1) あなたの子どもさんを油木高校に進学させたいと思いますか。



<各小学校別では>



<各中学校別では>

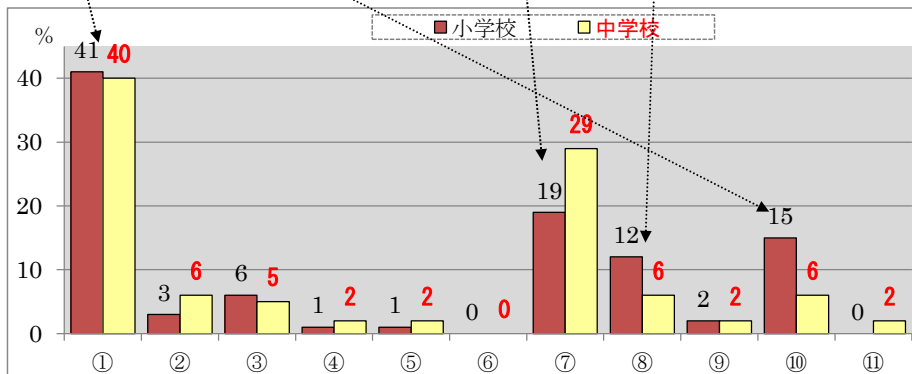


**考察** ・全体としては、「入学させたい」肯定的回答は53%（昨年52%、一昨年53%）で、前年とほぼ同じである。一方、「入学させたくない」は11%（昨年8%、一昨年6%）で、少し増加した。

- ・小中学校別では、「入学させたい」は中学校が多く、「わからない」は小学校の方が多い。他は小中共に同じくらいである。これらは高校進学時期の年齢差からくるものと思われる。
- ・各学校別の小学校では、「入学させたい」肯定的回答50%以上が昨年度は2校であったが、本年度は1校（油木小学校71%）のみであった。
- ・中学校において、両校とも「入学させたい」回答率は50%以上であるが、小中学校共に「わからない」の回答が30%前後あり、今後「入学させたい」と思われるような教育実践や魅力づくりに向けて、学校現場と教育行政との両面から努力していく必要がある。

(2) 上記(1)の質問で「① 入学させたい」or「② どちらかと言えば入学させたい」と答えられた方で、その理由と思うものを下の中から選んでください。(複数回答可)

- |           |                   |             |          |        |
|-----------|-------------------|-------------|----------|--------|
| ① 通学に便利   | ② 進路実績            | ③ 教育内容面     | ④ クラブ活動面 | ⑤ 寮がある |
| ⑥ 施設設備がよい | ⑦ 町の支援(公営塾、海外研修等) | ⑧ 学校や生徒の雰囲気 |          |        |
| ⑨ 家族等の薦め  | ⑩ 友人関係            | ⑪ その他       |          |        |



⑪ その他(小学校)

⑪ その他(中学校)

・子ども(兄弟)が入学しているため ・町から高校がなくならないため ・子どもが入学を希望しているため

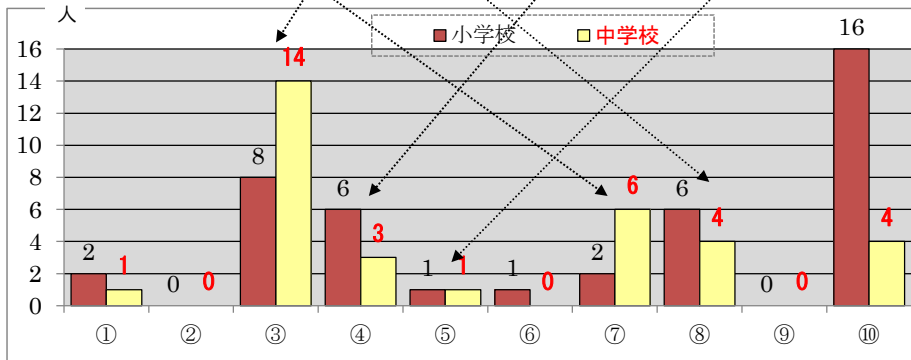
**考察** ・小学校と中学校を比較した時、ほとんど同じような傾向といえる。即ち、油木高校を選択する理由は、多いものとして、①「通学に便利」と⑦「町の支援」の二つが際立って多かった。

これらのことから、保護者に受け入れられている「町の支援」はできるだけ継続しながら、費用対効果が上がるように中身の充実を図っていかねばならない。また、「通学の便」もかなり重要度が高く、アンケートの回答の中で、「油木高校へ行きたくない」理由(次ページ)として、バス便が少なくなったり、運賃が高いなど通学の便を不安視されている保護者が多かった。

これらのことから町としてできる支援策を今後においても検討しながら、油木高校の魅力アップにつなげていく必要がある。

(3) 上記 6(1) の質問で「④ 入学させたくない」と答えられた方は、子どもさんの高校進路選択をする上で、保護者として重要視したいことはどんなことですか。下の中から最も重要視したいものを2つ選び、該当番号に○印をしてください。

- ① 通学の便    ② 伝統や校風    ③ 子ども本人の希望    ④ 学習環境面    ⑤ 教育内容面  
 ⑥ 施設設備面    ⑦ クラブ活動面    ⑧ 進路実績    ⑨ 経費面    ⑩ その他



⑩ その他（小学校）

・町内のバスは高すぎるため ・他校の寮へ入れた方が安い（食事付き） ・人数の少ないところではなく多いところで様々な出会いをして欲しい ・小～中までずっと同じメンバーで高校へ通い、大学に出た時初めて町外の人と触れ合うより、早く色々な中学校出身の人と触れ合う経験もさせたいと思うことがある（もう少し厳しい環境） ・医療関係か調理師関係の仕事をしたいが専門の科がないから ・今後も連携型中高一貫教育の取組に大変期待しています

⑩ その他（中学校）

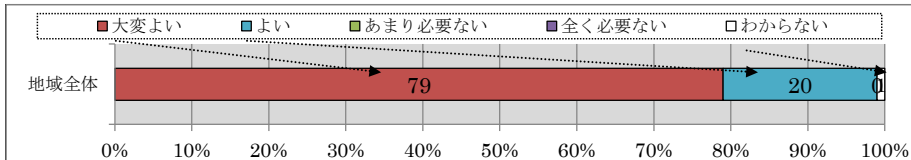
・良い先生がいない ・他校に行くようにしている ・バスの便が少なく部活動も送り迎えは厳しい ・製菓衛生師や調理師など卒業までに資格が取ればよいと思う

**考察** ・「油木高校へ入学させたくない」と答えられた方が高校進路選択をする上で、特に重要視したいものとして多いのは、小学校保護者では ⑩「その他」であった。ついで ③「子ども本人の希望」④「学習環境面」⑧「進路実績」となっている。

一方で、中学校保護者で最も多いのも ③「子ども本人の希望」。ついで ⑦「クラブ活動面」、その他はどの項目も少数である。これらのことから、保護者の多くが「子ども本人の希望」を優先される傾向にあり、児童・生徒への油木高校の理解や関心を深めていく取組が重要と思われる。

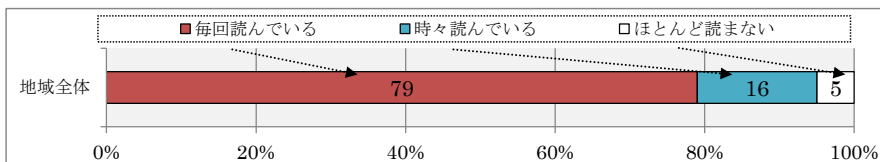
## 5. 町内地域に係るアンケート調査の結果と考察

- ① 現在、油木高校と町内中学校との連携教育（例：中高交流授業、部活動交流、学校行事への相互参加、教職員の交流など）が実施されていますが、そのことについてどう思いますか。



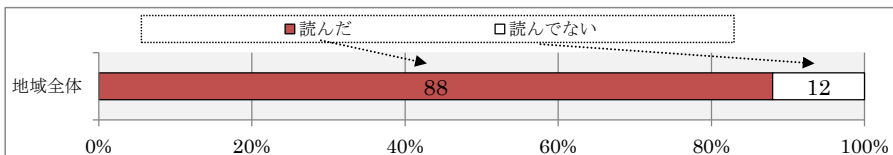
**考察** 地域のほとんどの方々（99%）は、中高連携教育を「大変よい・よい」とする肯定的回答で、「必要ない」との否定的回答は0%であったが、今後更なる中身の充実を図り、情報提供を継続していく必要がある。

- ② 広報紙「連携型高一貴教育」や刊『高原の風』を年3回町内全戸に配布していますが、読まれていますか。



**考察** 「毎回読んでいる」が79%と前年度（77%）よりやや増加しており、多くの方々に読んでいただいている。一層「毎回読んでいる」が向上していくよう中身の充実を努めていかなければならない。

- ③ 昨年、町内全戸に配布した『神石高原町が実施している油木高校生への8つの支援』リーフレットを読まれましたか。

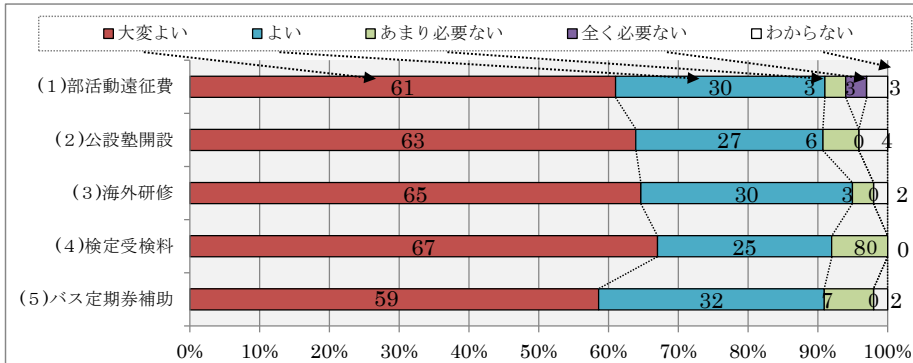


**考察** 本年度も多くの方々（88% 昨年：89%）に読んでいただいているが、この「8つの支援」は、油木高校の魅力でもあるので、地域の方々にもしっかりと知っていただき、地域の声も聞きながら新たな魅力づくりを検討していくためにも、リーフレットの配布は今後も継続していく必要がある。

- ④ 本町が油木高校の魅力策として様々な教育支援を実施していますが、それらについて、次の質問にお答えください。

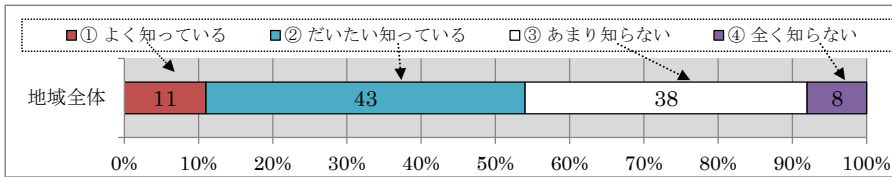
- (1) 部活動での遠征費補助について、どう思いますか。
- (2) 油木高校内での公設塾「はやぶさ塾・神ゼミ」の開設について、どう思いますか。
- (3) 海外（短期・長期）研修事業への支援について、どう思いますか。
- (4) 各種検定の受検料補助（合格者のみ）について、どう思いますか。
- (5) 町外生徒へのバス定期券購入補助（但し、町内生徒へは現在1乗車300円、1ヶ月定期9,000円の補助がある）について、どう思いますか。





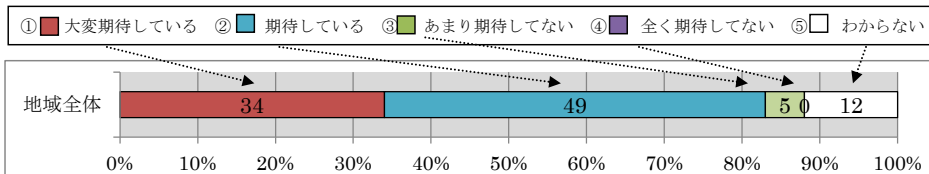
**考察** 各項目とも「大変よい・よい」を合わせて90%以上あり、肯定的回答が非常に多い。しかも「大変よい」が約60%以上あり、最も多くを占めている。  
この数値が示すように、地域住民の期待は大きいため、今後もこれらの支援は継続していく必要がある。

⑤ 本町では現在、慶應大学との連携協力協定事業の一つとして「油木高校魅力化+プロジェクト」に取り組み、その具体策（総合学習のカリキュラム開発・放課後「神ゼミ」など）を検討し、実施しているところですが、その取組内容をご存じですか。



**考察** 「知っている・だいたい知っている」との肯定的回答は54%（昨年：59%）と半数以上はおられるが、反対に「あまり知らない・全く知らない」が46%（昨年：41%）と約半数おられるので、広報紙や学校ホームページ、あるいは講演会等を実施して情報提供していく必要がある。

⑥ 「油木高校魅力化+プロジェクト」では、「総合的な探究の時間」にその地域、学校でなければ学べない独自のカリキュラム開発に取り組み、地域と連携した「地域課題発見・解決型キャリア教育」を推進しているところですが、そのことへのどの程度期待感をもっておられますか。



**考察** ・地域全体では、「大変期待している・期待している」の肯定的回答が83%（昨年81%）と前年とほぼ同じぐらいである。これは、油木高校への期待度でもあるので、「油木高校魅力化+プロジェクト」の取組を一層充実させていく必要がある。また、取組内容や進捗状況を出来るだけ地域・関係者等へしっかりと情報提供（情報紙の配布、講演会や説明会等の実施、ホームページの掲載 など）していく必要がある。